

第62回新生ふくしま復興推進本部会議 議事録

■ 日時：平成29年2月6日（月）9：20～9：30

■ 場所：第二特別委員会室（本庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただ今より、新生ふくしま復興推進本部会議を開催します。

議題の1つ目、「イノベーション・コースト構想の推進強化」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料1、「イノベーション・コースト構想の推進強化」について、1ページを御覧ください。

左下ですが、先月末の福島復興再生協議会の場で、国から福島復興再生特別措置法の改正案が示されました。

イノベーション・コースト構想につきましては、福島国際研究産業都市区域として、県が策定する重点推進計画に記載することで、その推進が法定化されるとともに、福島復興再生協議会の下に法定分科会が新設されるなど、国の推進体制が強化される内容となっております。

本改正案については、今週10日に閣議決定の上で、国会に提出される予定であります。

こうした国の動きも踏まえつつ、県としても、「浜通り地域再生のエンジン」である本構想の実現に向け、平成29年度、必要な予算の確保に努めた上で、3つの新たな取組を総合的に進めてまいります。

右下ですが、1点目、構想に係る「戦略・企画推進機能の強化」であります。新年度、「国際研究産業都市推進監」を新設し、推進監の下で、庁内の検討体制を抜本的に強化します。また、市町村や大学等との協議体制についても、機能強化を進めます。これにより、新たに法案に盛り込んでいただいた特例の活用も含め、重点推進計画の変更等に取り組みます。

2点目、「構想を推進するための法人の設立」についてであります。関係する産学官の様々な主体間の連携を推進するため、将来的には中核的な機能を担える法人を目指し、新年度、改正法の施行後に、一般財団法人の設立に向け準備を進めてまいります。推進法人の設立により、拠点運営、情報発信・交流事業を一体的に進め、構想の具体化を着実に推進し、その動きも分かりやすく伝えてまいります。

3点目、「地元産学官の連携協議体の創設」について、資料2ページの「イ

メージ」であります。新たに設立する推進法人を事務局として、福島の実業創りを共に協議する場を設け、イノベーション・コースト構想の具体化を、福島県全体で、そして県内外の産学官が一体となって進め、地元の仲間の輪を広げてまいります。

最後に、3ページは、イノベーション・コースト構想関連の29年度県当初予算案の概要です。構想推進関連で約700億円を計上し、ロボット、エネルギー、農林水産分野など、部局連携して各プロジェクトの具体化を進めてまいります。

以上、県としては、庁内はもとより、地元の産学官の関係者との連携を強化していくとともに、経済産業省、復興庁を始めとした国の関係省庁とも一層連携を密にしていきながら、イノベーション・コースト構想の推進強化に取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

今の説明に関して意見等をお願いします。商工労働部長。

【商工労働部長】

1点目の構想推進のための法人につきましては、現在、商工労働部で整備を行っているロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設（ロボット）の管理運営に係る準備業務等を同法人が担うこととされていることから、緊密な連携の下、平成30年度のロボットテストフィールド等の開所に向けてしっかりと準備を進めてまいります。

3点目の地元産学官の連携協議体につきましては、今後、国や研究機関、商工団体等と連携し、地元の中小企業を始め、県内外の数多くの企業の参入を積極的に促し、イノベーション・コースト構想に掲げられたそれぞれのプロジェクトの具体的な実現に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

他にありませんか。

なければ、知事をお願いします。

【知事】

イノベーション・コースト構想は、平成26年に構想の策定がスタートしました。今回、この構想が初めて福島復興再生特別措置法に位置付けられ、国における体制の整備まで、法制化されることとなりました。これで、イノベーション・コースト構想が名実ともに国家プロジェクトとして位置付けられたこと

になります。

今年の国会でも、施政方針演説や答弁で、安倍総理から、「イノベーション・コースト構想を推進して福島復興再生を進める」と力強い決意が述べられております。

これからは、地元である福島県自身も、法定化をてことして、イノベーション・コースト構想の具現化を加速していかなければなりません。

新年度の3つの取組が、まさに、こうした国の動きに呼応して、国と福島県の歯車を相互にかみ合わせ、イノベーション・コースト構想を進めていくためのものです。

構想は非常に幅の広いコンセプトを持っており、産業再生のみならず、魅力的な都市づくりや、福島の「新しい未来を創る」ことにもつながります。改めて、イノベーション・コースト構想が果たす役割の重要性を再度意識し、職員一人一人が、それぞれの立場で最大限の力を発揮し、全庁一丸となって、浜通りの再生、本県の復興再生に取り組んでください。

【鈴木副知事】

次に、「3. 1 1 ふくしま追悼復興祈念行事」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料2を御覧ください。3月3日には、東京都において、青森県、岩手県、宮城県と共に、「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催します。東北4県が一体となって、これまでもフォーラムを開催しておりましたが、震災の風化防止に向け、しっかりと情報発信に努めてまいります。

2段目ですが、3月11日には、福島市内で、「追悼復興祈念式」と県内5会場で「キャンドルナイト」を開催します。震災で犠牲になられた方々に、哀悼の誠を捧げ、復興への思いを新たにいたします。

翌週の3月18日には、福島市内で、今年で4回目となる「ふくしま復興を考える県民シンポジウム」を開催します。プログラムは現在の暫定ですが、昨年度に引き続き、報道番組のキャスターとしておなじみの村尾先生をコーディネーターとしてお迎えし、福島復興を支える方々による、パネルディスカッション等を通して、ふくしまの未来について考えます。

これらの取組を通じて、震災の風化を防止するとともに、復興への思いを新たにし、皆さんと力を合わせ、復興・創生へ向け、取り組んでまいります。

「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」と、「追悼復興祈念式」「キャンドルナイト」につきましては、チラシをお付けしております。シンポジウムにつきましても、決まり次第、お知らせいたします。

各部局におかれましても周知の御協力をお願いいたします。

【鈴木副知事】

それでは、復興推進本部会議を閉じます。